



ISBN978-4-87354-440-3

C3014 ¥3100E

定価(本体3,100円+税)



ドイツにおける神秘的・敬虔的思想の諸相

芝田 豊彦

関西大学出版部

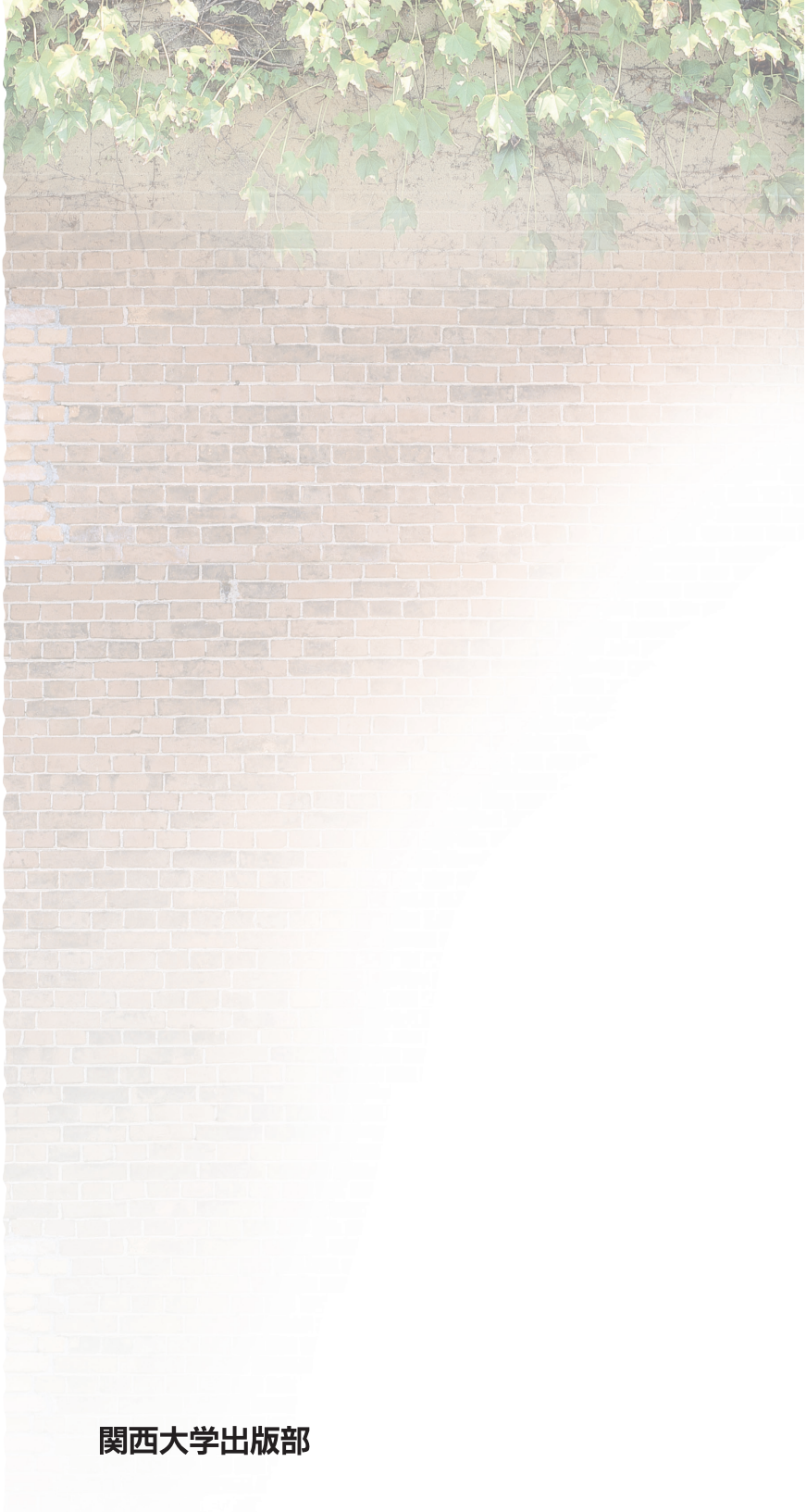
ドイツにおける

神秘的・敬虔的思想の諸相

芝田 豊彦

— 神学的・言語的考察 —

関西大学出版部



ドイツにおける神秘的・敬虔的思想の諸相
—— 神学的・言語的考察 ——

芝 田 豊 彦

関西大学出版部

はじめに

本書は、ドイツにおける神秘的・敬虔的思想の諸相を、神学的および言語的に考察したものである。本篇は十章よりなり、ほぼ時代順に並べられている。各章はそれぞれ内容的に完結しているので、独立して読んでいただけると思う。

取りあげた主要人物（或は運動）を時代順にあげると、ゾイゼ、タウラー、ルター、アルノルト、フィラデルフィア運動、エーティンガー、ヘーゲル、ヘルダーリン、聖化運動となる。これから分かるように、ドイツ神秘主義も取り扱ったが、力点が置かれているのはむしろプロテスタント圏の思想家、神学者、詩人たちである。特に、わが国ではほとんど未開拓の分野である敬虔主義に注目した。即ち、敬虔主義の個別研究（アルノルト、フィラデルフィア運動、エーティンガー）や、神学的・敬虔主義的視点からのヘルダーリン論、更に敬虔主義を継承する聖化運動やゲマインシャフト運動を論ずることによって、敬虔主義的思想の神秘的・敬虔的な特質を明らかにした。

キリスト教神秘思想と言うとすぐに、カトリックないし東方キリスト教会の神秘思想を連想するのが普通であるが、プロテスタントにも神秘思想の伝統は受け継がれているのである。この点に関しては、クラウス・エーベルト編纂の『プロテスタントの神秘主義』¹やゲールハルト・ヴェーア編纂の『プロテスタントにおける神秘主義』²といったテキストの抜粋集がドイツでも刊行されているので、納得していただけるであろう。本書で取り扱ったルター、アルノルト、エーティンガー、ヘーゲルは上の二冊のどちらにも収録され、更にヘルダーリンも後者に収録されている。

第10章に関して、ひとこと付言しておきたい。この章の基になるのは筆者

1 Ebert, Klaus (Hrsg.): Protestantische Mystik. Von Martin Luther bis Friedrich D. Schleiermacher. Eine Textsammlung. Weinheim 1996.

2 Wehr, Gerhard: Mystik im Protestantismus. Von Luther bis zur Gegenwart. München 2000.

の最も初期の習作的論文であり、しかもそこで取り扱った三人の神学者・思想家はすべてドイツ人ではないが、あえて最終章として収録させていただいた。この章は滝沢神学に収束しており、滝沢神学は筆者の思想的出発点であるばかりでなく、本書の他の章とも何らかの意味で関連しているからである。

なお付録として、ゲーテとヘーベルに関する小品二篇と、現在の著者の研究課題である「プロテスタントにおける雅歌の翻訳と解釈」の中でも時代的にかなり古く、資料的価値があると思われる「ピスカートア聖書における雅歌」を収録した³。

本書で使用した記号等について。

傍点および下線はすべて筆者（芝田）による。また〔 〕は筆者による補足説明である。その他は一般の慣例に従った。

3 初期新高ドイツ語の文例を収録した次の読本には、ルター聖書を含む4種の聖書翻訳の一つとしてピスカートア聖書が収録されている。Reichmann, O. u. Wegera, K.-P. (Hrsg.): Frühneuhochdeutsches Lesebuch. Tübingen 1988.

目 次

はじめに	i
------------	---

本篇

第1章 ゴイゼにおける「放下」と「キリストの形」について	1
—— 道元、一遍との比較 ——	

序	1
第1節 ゴイゼの『真理の書』	2
第2節 道元、一遍との比較	16

第2章 ルター聖書における Klarheit	31
—— 由来と18世紀の用法 ——	

序 グリムの辞書における Klarheit	31
第1節 タウラー、ゴイゼにおける Klarheit	32
第2節 ルター聖書における Klarheit	37
第3節 18世紀の聖書翻訳における Klarheit と Herrlichkeit	47
第4節 18世紀文学作品における Klarheit	58

第3章 ゴットフリート・アルノルトとソフィア神秘主義	67
----------------------------------	----

第1節 神的な知恵	67
第2節 知恵の神智学的説明	71
第3節 知恵との出会い	73
第4節 アルノルトにおける神秘的合一	80
第5節 キリストとの合一とソフィアとの合一 (両性具有的人間像)	86

第4章 ドイツ・ヘッセン地方の敬虔主義における雅歌	93
—— フィラデルフィア運動と「私の自由意志の民」——	

第1節 「私の自由意志の民」(雅歌6章12節)	93
第2節 マールブルク聖書における雅歌	96

第3節	コンラート・メルにおける雅歌	109
第4節	ベルレブルク聖書における雅歌 (訳語「私の自由意志の民」)	113
第5節	訳語「私の自由意志の民」の由来	116
付記	マールブルク聖書における分離主義の問題について (キルヒハイン時代のホルヒ)	118
第5章	エーティンガーとヘルダーリンにおける万物和解説	125
第1節	千年王国説と万物和解(復興)説	125
第2節	エーティンガーの万物復興説	131
第3節	ヘルダーリンにおける万物和解	137
第6章	ヘーゲルとエーティンガーにおける「生」の思想	149
	——ヘルダーリンとの関連で——	
	序	149
第1節	若きヘーゲルにおける「生」の思想	150
第2節	エーティンガーにおける「生」の思想	168
第7章	ヘルダーリンの『ヒュペリオン』におけるGeistの用法	181
	序	181
第1節	プネウマとGeist	182
第2節	ストア的なGeistの用法	185
第3節	Geistにおける精神的意味と感覚的意味の結合	192
第4節	生とGeist	195
第5節	普遍的精神	200
第6節	ストア的世界観の危機	204
第8章	ヘルダーリンのキリスト讃歌におけるGeistの用法	207
第1節	『平和の祝い』におけるGeist	207
第2節	『唯一者』におけるGemeingeist	217
第3節	『パトモス』におけるGeist	224
付記	ヨハネ福音書4章24節の「神は霊である」について	229

第9章 テオドル・イエリングハウスにおける「聖化」の諸問題	233
序	233
第1節 イエリングハウスの聖化思想	235
第2節 クラヴィーリツキーの「復活の生」	246
付記 敬虔主義	251
第10章 キルケゴール、バルト、滝沢の神学	255
—— 神学と哲学の関係について ——	
序（神学と哲学）	255
第1節 キルケゴール	256
第2節 カール・バルト	259
第3節 バルトにおけるイエス・キリスト	264
第4節 バルトの再臨・審判観	268
第5節 滝沢克己	269
第6節 非宗教化	271
第7節 結語（再び神学と哲学）	274
付記 滝沢神学と神秘主義	275
付録	
付録1. 敬虔主義とゲーテ	277
付録2. ヘーベルとハイデッガー	285
付録3. ピスカートア聖書における雅歌	291
第1節 ピスカートアとその聖書	291
第2節 ピスカートア聖書における雅歌の翻訳と解釈	294
第3節 ピスカートア聖書の雅歌の特質	317
付記 ルター聖書（1545年）の雅歌2章2節における「薔薇」	321
文 献	325
後 記	339
人名索引	341

